

皇學館

学園報 第56号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市桶町138
[高校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

注目記事

1面 平成27年度 皇學館大学入学式を挙行

2面 木田久主一鳥羽市長が講義 短期海外語学研修・海外インターンシップ第1期生が帰国報告

3面 新任教職員紹介

4・5面 フィールドワーク・校外学習体験記

6面 (高校・中学校) 新入生対面式 ほか

7面 人事異動 平成26年度卒業生就職状況

8面 創部初! 硬式野球部、明治神宮球場へ

連載

5面 研究室探訪 Vol.23 遠藤 司ゼミ(現代日本社会学科)



いくぶん緊張しながらも、堂々と宣誓を読み上げる文学部代表の岸岡君

皇大生としての自覚と誇りを持って

午前10時、開式の辞で始まった入学式は国歌斉唱の後、清水潔学長が令旨を奉読。続く式辞で、清水学長は新入生八三三四名に対し、栄えある皇學館大学の学生として入学を許可されたことを宣言し、「昨日までは見知らぬ仲であった諸君と私共が

皇大生としての自覚と誇りを持って

満開の桜に小雨滴る四月三日、本学記念講堂において平成二十七年入学式が挙行された。今年度、晴れて入学の日を迎えたのは大学院16名、専攻科28名、学部七八五名、学部転入・編入・学士入学五名の計八三四名。スーツ姿も初々しい新入生たちは凜とした表情で式に臨み、皇學館大学生としての第一歩を踏み出した。

名に対し、栄えある皇學館大学の学生として入学を許可されたことを宣言し、「昨日までは見知らぬ仲であった諸君と私共が

不思議とも思える縁によって結ばれ、出会えたことに感謝したい」との言葉を述べた。そして、今年から一三三年前、明治十五年(一八八二)に遡る皇學館創立の経緯に触れるとともに先ほど奉読した令旨について解説。「わが国の歴史と伝統に基づく学問を修め、わが国のありべき正しい姿、日本の文化や思想、父祖伝来の精神を明らかにし、それを継承実践して文明の進展に寄与しようとの令旨に説かれていた精神は、最も簡潔明瞭、的確に皇學館の『建学の精神』を表している。(中略)諸君には本学の古い歴史や一貫した学風、精神の継承について実感し、そのよ

八三四名が新たな縁を紡ぐ

平成二十七年 皇學館大学入学式

さらに、グローバル化が叫ばれている今こそ日本について深く学び、世界に向け日本文化を発信できる人材が求められていることや、本学が文部科学省より地(知)の拠点大学として採択されたことに関連して、今年度から地域貢献人材の育成を目的としたカリキュラムが本格的に始まることにも言及。学生には四年間の学びを通して人間性を磨き、己自身の固有の価値と使命とは何かを探究しながら、学びの成果を社会に生かす道を見出し、ほしいと期待を込めて語った。

び、友と語り心を通じ、価値観を柔軟に吸収し、独自の豊かな文化を築き上げてきた先人の生き方や知恵を大いに学び、その上に立って一身の独立をめぐらしていかねばなりません」と激励のお言葉をいただいた。

それぞれの決意を胸に

文学部を代表して宣誓を読み上げた国史学科の岸岡史将君は「歴史に興味があり、教授陣の層が厚い皇學館大学で学びたい」と晴れて入学できた喜びを語り、将来は高校の歴史の先生になりたい。また、書道を長く続けてきたので大学でも書道部に入り、さらに高みをめざしたい」と抱負を語った。教育学部代表の谷口大知君は「高校時代、部活の先生の指導のおかげで精神面を鍛えることができた。自分も生徒と向き合い、成長を見守れる教師になれば」と夢を語った。現代日本社会学部の代表を務めた村井玲奈さんは「無事に宣誓を終えることができ、よかった」と安堵した様子で語り、「何事もなくかかやってみないとわからないと思うので、大学では勉強以外にもいろいろな経験を積んで、充実した毎日になりたい」と笑顔で話した。

希望に満ちた新生活スタート

平成二十七年 皇學館中学校・高等学校入学式

四月七日に第三十七期皇學館中学校入学式が、九日に第五十三回皇學館高等学校入学式が執り行われた。会場は喜びの中にも身の引き締まる緊張感が漂い、両校の生徒たちはそれぞれの目標を胸に新生活をスタートさせた。

花曇りの四月七日にゼミナーホールで執り行われた皇學館中学校の入学式。七十名の新入生たちは真新しい制服に身を包み、緊張した様子で式に臨んだ。

新入生代表を務めたのは松本幸子さんだ。松本さんは本校に通う兄が友だちや部活等について毎日楽しそうに話す姿を見て本校をめざしたと語り、「入学できて本当に嬉しい。将来は医療分野に進みたいと思っているので、勉強はもちろん、部活や友人関係も充実させたい」と目を輝かせながら話した。

四月九日に挙行された皇學館高等学校の入学式では、三八九名の新入生に対し中学校の入学式と同様に賀陽宮邦憲王の令旨を中村校長が奉読。式辞では皇學館教育の理想とするところが令旨に



入学の喜びを語る松本さん

式辞では中村貴史校長が神道に則って立てられた本学園の教育方針を説明。神道が求める人間像「清明正直」―清潔

に、明るく、正しく、率直に学び、生きていくことが大切と語り、そうした一日一日の積み重ねの上でそれぞれ個性を伸ばし、大きく成長していく六年間であってほしいと励ました。

四月九日に挙行された皇學館高等学校の入学式では、三八九名の新入生に対し中学校の入学式と同様に賀陽宮邦憲王の令旨を中村校長が奉読。式辞では皇學館教育の理想とするところが令旨に



皇學館大学の記念講堂で厳かに執り行われた高等学校入学式



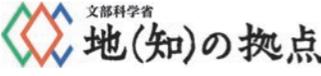
村井さん(現日) 谷口君(教育) 岸岡君(国史)

倉田山 春秋

神宮皇學館大学の学長を務めた山田孝雄に「櫻史」という著作がある▼序文の末尾に「昭和十六年四月御衣黄の花の盛り之時 神宮皇學館大学の居室にてしるす」とあり、箱には「神宮皇學館大学長／文学博士」の肩書きを載せる▼御衣黄桜とともに本学園にとり、ゆかりのある著作である▼さて、その名のとおり我が国の文学や文化の中で桜という花がどのように捉えられてきたかを実証的に説いたものである。その中に、おや、と思わせる話がある▼桜はその開花期の短さと一斉に花びらを落とす様から潔さを象徴する花だという人がいるが、それは間違いで、我が国の文学史上、そういう解釈はなく、真の桜が潔さの象徴だと説く『武士道』の著者である新渡戸稲造の文を引用して、本当の日本精神を理解しない欧米かぶれと断じている▼真正面から資料に向き合ってきた山田孝雄は、実証の大切さと思込みの価値観の危うさを教えてくれる▼今年もまた学園は新たな仲間を迎えた。ぜひ、自ら主体的に学び、真実と真摯に向き合う態度を身につけてほしいと願う。

木田久主一鳥羽市長が講義

『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムが本格始動



学生のような若い世代に地域が抱える課題や問題点を把握してほしいと、鳥羽市の現状について熱心に語る木田鳥羽市長

鳥羽の魅力や現状を語る

文部科学省より平成二十六年「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択されたことを受け、「伊勢志摩定住自立圏」を形成する三市五町(伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・明和町)の自治体と連携して地域人材育成のための教育プログラム作りを行ってきた本学。着々と準備を進めてきた中、四月からカリキュラムが本格始動。五月十三日には木田久主一鳥羽市長が講義を行った。

五月十三日、本学六号館にて「伊勢志摩定住自立圏共生学」科目Ⅰ「伊勢志摩圏の定住資源と将来像」の授業が行われ、同科目を選択した二年生九十六名を対象に、木田久主一鳥羽市長が「海女と真珠のふるさと鳥羽の地域経営」と題した講義を行った。

この科目は地域が抱える課題の解決に向け、まずは伊勢志摩圏の歴史・文化・観光資源、定住環境資源の現状を理解してもらおうが狙い。四月より本学教員による授業が行われてきたが、外部の講師が登場する授業はこれが初めて。講義では冒頭、本学の担当教員が「鳥羽市に住んでみたいと思うか？」などという問いかけ、学生の認識を浮き立たせることから始まった。続いて木田市長が鳥羽市の歴史的魅力、特色ある離島、食や風景の魅力を紹介。その後、鳥羽市を取り巻く現状として人口が昭和三十五年をピークに減少しており、とくに四十歳以下の若者

が少なくなっていること、平成二十二年に過疎地域に指定されたことなどを伝えた。また、市の主産業である観光・サービス業に関しては観光客は減少しつつあるものの、年間二百万人が鳥羽を訪れていることや財政状況についても具体的に示した。

後半は、定住促進と子育て支援の取組みを紹介。定住応援事業奨励金の制度をはじめ、保育所・幼稚園が二人目から無料であること、中学三年生まで子どもの医療費が無料であること、高校生の通学費、下宿代等の一部を助成するといった就学支援が実施されていることを説明した。さらに、鳥羽市の活性化に向けて

地域を知ることから始まる 地域活性

教育学科二年の宮本朋典君は「観光で訪れたことはあったが、歴史や市の政策についてはほとんど知らなかったので興味深かった。行政が結婚支援まで携わっていることに驚いた」と語った。同じく服装早恵さんは「こうした授業を通して地域の現状をまずは理解することが大事だと思う。将来は地元に残り、地域の教育に貢献できる教師になりたい」と語った。

講義後、木田市長は「学生たちが熱心に聴講してくれてよかった。これまでに学問と実業は分かれていたが、これからは現場で知恵を活用することが大切。学生や大学が関わ

日本一海女が多い町であることを世界へ発信していること、離島の干物文化に着目した「HOSUプロジェクト」や「とばーがー」のプロモーションなど食を活用した地域おこし、結婚支援の取組みなどを話し、「鳥羽に住みたい人を行政としてもできる限り応援していきたい」と締めくくった。

この座談会には、清水学長のほか芹澤剛氏(園田学園女子大学人間教育学部教授)、榊裕之氏(豊田工業大学学長)、棟方信彦氏(松山東雲女子大学学長)、湊晶子氏(広島女学院大学学長)が参加。平成十七年の「我が国の高等教育の将来像(答申)」で大学の機能別分化という方向が示され、それにつながる事業として文部科学省が「昨年度と昨年度に「私立大学等改革総合支援事業」を実施した中、地域に根ざす大学が自らの個性や役割、めざすべき方向性をいかに定め、どのように改革を進めていくのか話し合われた。

学長が「地域に根ざす大学の役割」語る 『大学時報』座談会

現して社会実践に努めるかについて言及。カリキュラム改革など具体例を挙げながら、地域社会を担うアクティブシブズの養成や日本の伝統文化を発信できる能力の育成に尽力している現状を語った。

さらに、大学の機能別分化を踏まえた今後の方向性として、日本の精神文化の教育研究拠点をめざすこと、地(知)の拠点大学として地域貢献人材の育成に取り組むこと、二点を挙げ、その実現のために七大学、地域、行政、産業界等と連携を進めていく必要性を訴えた。

また、座談会では地方と中央の断絶に対する懸念も示されたが、国内留学など各大学を横断するプログラムや大学間交流、資源の連結・活用が進めば断絶解消につながるのではないかなど、有意義で活発な意見交換がなされた。

なお座談会の詳細は『大学時報』五月号(五月二十日発行)に掲載されている。

グローバル人材育成プログラム 充実の海外研修生活を語る

短期海外語学研修・海外インターンシップ第一期生が帰国報告

本学が策定した中期行動計画の柱の一つ「グローバル人材の育成の一環により、平成二十六年から追加されたフィリピン・マレーシアでの短期海外語学研修と中国での海外インターンシップ制度。その第一期生が研修を終えて帰国し、充実した現地での暮らしぶりを語った。

参加しやすいと 近年人気のアジア留学

四月七日、本学記念講堂において短期海外語学研修と海外インターンシップ(学園報五十五号にて詳報)の参加者五名による体験報告会が催された。

壇上に上ったのは二月十五日から三月十四日までフィリピン・セブ島(ピサヤ大学語学学校)での語学研修に参加した佐伯篤史君(神道学科三年)、鏡味直澄君(コミュニケーション学科三年)、二月二十八日から三月二十八日までマレーシア(プトラ大学語学学校)に滞在した黒田敢大君(教育学科三年)、長谷川卓君(コミュニケーション学科三年)、三月二日から八



参加者の5割は初の海外という今回の語学研修。右から佐伯君、鏡味君、黒田君、長谷川君、三好さん

日までの日程で上海・蘇州でのインターンシップを体験した三好瑛子さん(コミュニケーション学科四年)の五名。佐伯君は参加した動機について先生に勧められたのがきっかけと語り、「正直、中学で挫折して以来、英語が嫌いだった。でも、現地の先生にその

ことを伝えたら『君向けのプログラムにしてあげよう』と言われ、気が付いたら苦手意識がなくなっていた」と研修前後の心境の変化を明かした。鏡味君は「マンツーマン

に近い少人数のクラスなので、とにかく英語を話さなければ何も始まらない状況。先生やクラスメイトがとてもフレンドリだったので、会話を中心に楽しく英語を学べた」と授業スタイルを満足げに語った。さらに、オフの時間は近くの島や柔道場を訪れるなど積極的に行動したと話し、アポとりなどを通して度胸も身に付いたと現地での生活を振り返った。

黒田君は「ただただ海外に行きたいと思っていた。実際に行ってみると価値観が変わった」と

現代日本社会学科一年の片田拓海君は「英語が苦手なので海外へ行くことに迷いがあった。でも、今日の話聞いて、アジア圏なら近い行ってみよう」と先輩の話を興味を持った様子。教育学科一年の中本真衣さんは「行ってみたいという話が多いけど、実際に残った」と話した。同僚木佑君は「サッカーの試合を観

たりビートルズの博物館に行ったりと、好きなジャンルに絡めて英語を勉強したという話を聞いて、なるほどと思った。ぜひ取り入れたい」と学習の参考にしていた。これらのグローバル人材育成プログラムは奨学

金が付与されるなど支援体制が整っており、参加者の満足度はとても高い。語学力のみならず行動力や幅広い視野を身に付けるためにも、学生には積極的にチャレンジし、知見を深めてもらいたい。

長谷川君は「イラク人やリビア人、イラン人のクラスメイトと一緒に過ごした日は青空が見えるなど現地に行ってみるとわかることがある。テレビの情報だけがすべてじゃない」と、自分の目で確かめることの大切さを語った。

また、この帰国報告会の冒頭には、英国・ケンブリッジ大学の夏季短期留学(学園報五十三号にて詳報)に参加したコミュニケーション学科四年の上野優太君、北川結香さんも揃って体験談を報告した。

また、この帰国報告会の冒頭には、英国・ケンブリッジ大学の夏季短期留学(学園報五十三号にて詳報)に参加したコミュニケーション学科四年の上野優太君、北川結香さんにも揃って体験談を報告した。

強法を取り入れTOEICで八八〇点をマークするなど飛躍的に英語力が向上し、北川さんもコミュニケーションの楽しさにめざめた。海外研修の魅力と成果を口々に語った。

新任教職員紹介

この春から新たに加わった教職員の方々を紹介します。

- ① 出身地・経歴等
- ② 趣味・特技等
- ③ 座右の銘
- ④ 一言メッセージ

皇學館大学

文学部助教

川島 一晃



- ① 三重県◆名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了。前三重大学学生総合支援センター講師
- ② 読書、映画鑑賞
- ③ 一期一会
- ④ 新しい出会いに感謝して、日々研鑽に努めたいと思います。

教育学部准教授

梶 美保



- ① 三重県◆三重大学大学院医学研究科生命医科学専攻単位取得退学。前中部大学准教授
- ② ガーデニング、読書、書道、バルーンアート
- ③ 人生、地道にコツコツ
- ④ 幼児教育・保育を支えることのできる保育者の育成に尽力します。

教育学部准教授

高橋 摩衣子

- ① 東京都◆東京藝術大学音楽学部楽理科卒。同大学院音楽研究科音楽学専攻



攻修士課程修了。前東海学院大学准教授

- ② ピアノ演奏
- ③ 初心忘るべからず
- ④ 新しい環境に早く慣れ、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

教育学部助手

鈴木 幸枝



- ① 三重県◆前まるこ幼稚園園長
- ② ガーデニング
- ③ 人間万事塞翁が馬
- ④ 一年生のように心を弾ませていきます。三十八年の保育歴を生かせるよう頑張ります。

現代日本社会学部教授

岸川 政之



- ① 三重県◆元多気町まちな宝創造特命監
- ② 映画鑑賞、スポーツ、商品開発

- ③ 人源輝業
- ④ 「高校生レストラン」などの仕掛けをしました。研究室に遊びに来てください。

現代日本社会学部准教授

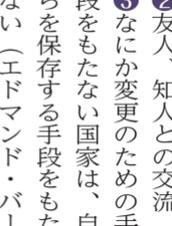
遠藤 司



- ① 山梨県◆同志社大学大学院法学研究科博士前期課程修了。富士ゼロックス、ガートナーを経て現職

教育学部助手

千田 良仁



- ① 香川県◆東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻特任研究員を経て現職
- ② 旅行、日本酒
- ③ 機会によって自らを変えて、地(知)の拠点の形成に寄与すべく努力します。
- ④ 人、モノ、地域をつなげる。

現代日本社会学部助教

灰谷 和代



- ① 大阪府◆保育士、相談員、専門学校教員を経て現職
- ② ピアノ
- ③ みんなちがって、みんない(金子みすゞ)
- ④ みんなが笑顔になることを考えるのが好きです。

す。よろしくお願ひします。

教育開発センター准教授

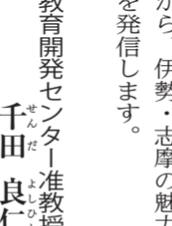
近藤 玲介



- ① 北海道◆明治大学大学院文学研究科博士後期課程修了。前明治大学文学部助教
- ② バイク旅
- ③ 歩いて観て考える
- ④ 自然地理・地学的視点から、伊勢・志摩の魅力発信します。

教育開発センター准教授

大津 政紀



- ① 三重県
- ② ギター

教育開発センター助教

池山 敦



③ 悠々として急げ
④ 四月一日に着任いたしました。今後ともよろしくお願ひいたします。

企画部書記

梅川 紗綾



- ① 三重県
- ② テニス
- ③ 日進月歩
- ④ 一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願ひします。

財務部書記補

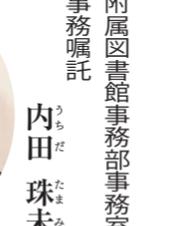
岩脇 優



- ① 三重県◆皇學館大学文学部国文学科卒
- ② 音楽鑑賞、楽器演奏
- ③ 為せばなる、為さねばならぬ何事も
- ④ 教職員の方々や学生たちに早く顔と名前を覚えてもらえるよう頑張ります。

教育学部卒

鈴木 晴美



- ① 三重県
- ② 神社・寺めぐり
- ③ 明日は明日の風が吹く
- ④ 日々コツコツと経験を

附属図書館事務部事務室

内田 珠未



重ねて頑張つてまいります。

学生支援部事務嘱託

宮下 州臣



- ① 愛知県◆愛知学院大学法学部卒
- ② 食べ歩き旅行、ゴルフ
- ③ 一生勉強一生青春
- ④ 伝統ある皇學館の良さを発信していきたいと思っております。

高等学校常勤講師

佐々木 英人



- ① 三重県◆皇學館大学教育学部卒
- ② 弓道、写真、ダイビング
- ③ やらずに後悔よりも、やって後悔!!
- ④ いつも明るく、笑顔で頑張ります。よろしくお願ひします。

高等学校常勤講師

高倉 修



- ① 三重県◆三重大学教育学部卒。三重県立南島高等学校、志摩高等学校、宇治山田高等学校を経て現職
- ② 写真撮影、旅

高等学校常勤講師

藤原 信夫



- ① 三重県◆皇學館大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻中退。三重県立桑名工業高校、鳥羽高等学校

学生支援部教職アドバイザ(事務嘱託)

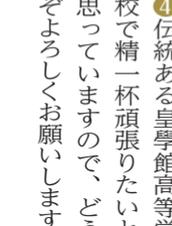
山口 正雄



- ① 三重県◆皇學館大学文学部国史学科卒。元伊勢市立厚生小学校校長、元伊勢市小中学校長等
- ② ゴルフ、カヌー
- ③ 笑顔が一番
- ④ 子どもとともに生きる教師を本学から送り出せるよう支援します。

皇學館高等学校・中学校

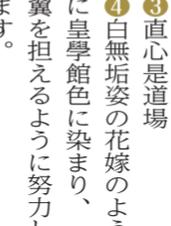
橋本 真人



- ③ 意志あるところに道は開ける
- ④ 伝統ある皇學館高等学校で精一杯頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

高等学校常勤講師

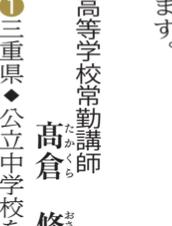
中井 智加



- ① 三重県◆公立中学校を経て現職
- ② ゴルフ、バイク、野球
- ③ 1%の才能と九十九%の努力。継続は力なり

中学校教諭

橋本 真人



- ① 三重県◆兵庫教育大学大学院学校教育研究科認知心理学専攻修了。香港教育學院英語教育研究

スポーツで

地域コミュニティ強化

伊勢市と合同で小学生対象のスポーツ教室を開催



5月20日に本学第1グラウンドで開かれたサッカー教室

伊勢市の重点施策である「総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)の育成」事業に、本学の六部(陸上競技・排球・バドミントン・サッカー・硬式野球・よさこい雅)が協力し、小学生を対象にしたスポーツ合同体験教室を開くことが決まりました。総合型クラブとは幅広い年齢層の人々がさまざまなスポーツに個々のレベルに合わせて取り組める新しいタイプのスポーツクラブで、現在、伊勢市には七つクラブがある。三重県では、平成三十年に高校総体、三十二年の東京オリンピック・パラリンピックを是さんで、三十三年には国民体育大会を控えていることもあり、より多くの子どもたちにスポーツの魅力をしみながら伝えていく絶好の機会といえる。また、教員等をめざす学生にとっては、子どもにスポーツを教えるスポーツ指導のあり方や経験を積み場になることが期待される。申込みは伊勢市教育委員会事務局スポーツ課まで。定員に達した教室から受付を締め切る。詳細は伊勢市のホームページをご参照ください。



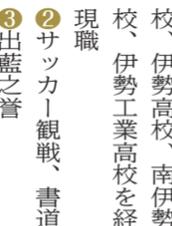
- ① 三重県
- ② ドライブ(全国制覇)
- ③ 直心は道場
- ④ 白無垢姿の花嫁のように皇學館色に染まり、一翼を担えるように努力します。

高等学校常勤講師

橋本 真人



- ① 三重県◆皇學館大学大学院文学研究科修士課程国文学専攻中退。三重県立桑名工業高校、鳥羽高等学校



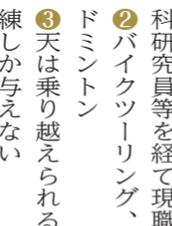
- 校、伊勢高校、南伊勢高校、伊勢工業高校を経て現職
- ② サッカー観戦、書道
- ③ 出藍之誉
- ④ 倉田山には縁が深く、学業・勤務をあわせて二十五年以上になります。よろしくお願ひします。

中学校教諭

橋本 真人



- ① 三重県◆兵庫教育大学大学院学校教育研究科認知心理学専攻修了。香港教育學院英語教育研究



- ① 三重県
- ② 料理
- ③ 七転八起
- ④ 一生懸命頑張ります。

学校事務部事務室

中井 智加



- ① 三重県
- ② 料理
- ③ 七転八起
- ④ 一生懸命頑張ります。

高等学校 春の遠足

友だちと仲良くなる大きな一歩

1年7組 西井夏凜

私たち1年生にとって初めての校外学習となる遠足はとても楽しかった。学校でしか触れ合ったことのない友だちとバスの中や鈴鹿サーキットでたくさん話することができた。それまでのクラスはとても静かで、馴染めるかどうか心配だったが、実はみんな明るく、とても話やすくして安心した。



一緒に楽しみ、友情を深めた鈴鹿サーキット

鈴鹿サーキットでは一緒に行動していた友だちと今までよりもっと仲良くなった。私たちはフリーパスポートを買ったので、たくさん乗り物に乗った。一番楽しかったのは4人乗りで「パワー！」と大声で叫ぶアトラクションだ。とても楽しくて、3回も乗った。

今回の遠足は新しい友だちと仲良くなる大きな一歩だったと思う。これからもクラスでさまざまな行事を経験すると思うが、私たちのクラスならどんなことも乗り越えられると思える一日だった。

星に感じた未来への可能性

2年10組 佐々木 星

当日、名古屋市科学館を目にして最初に驚いたのは何て大きい所なんだろうということだ。そして気がついたら、この限られた時間の中でできるだけたくさんものを見ようと、科学館の中を走り回っていた。見学しているうちにすっかり科学館の魅力に引き込まれていった。中でも印象的だったのはプラネタリウムだ。暗闇の中で光り輝く無数の星たち。その星と星との間に見えないつながりが存在すること。そして自分たちもその星のような存在であること。星を見上げながら、宇宙のように広大な私たちの未来への可能性も感じることができた。その可能性を信じて今後の高校生活を送りたい。今年の秋には楽しみにしている修学旅行がある。人とのつながりを意識し、宇宙のような無限の広がりを友人たちと実現させたいと思った。



名古屋市科学館の不思議な鏡



長島スパワールドにて記念撮影

今以上に輝き放つ思い出に

3年9組 堀井美里

私たち3年生は高校最後の遠足で長島スパワールドに行った。長島スパワールドでは友だちと乗り物に乗ったり、昼食を食べたり、アウトレット店で買い物をして楽しんだ。でも、皇學館高等学校の制服を着て、学年が揃って行動するのはこれが最後だと思うと、楽しい中にも寂しい思いが入り混じり複雑な気持ちに……。だからこそ、この限られた時間を大切に、今日一日全力で楽しもうと思えた。

帰路につくとき少し寂しい気持ちになったが、その思いをかき消す程の充実した思い出が胸に残っていることを嬉しく感じた。3年生の私が今思うのは、皆と作り上げた3年間の思い出を糧に受験勉強に邁進していきたいということだ。そして来年の3月1日、卒業の日にきっと今日の遠足のことを思い出さだろう。その時、この遠足で経験した時間が今以上に素晴らしい思い出として輝きを放つよう、残された皇學館高等学校での時間を有意義に過ごしたいと感じさせてくれた遠足だった。

中学校 自然体験学習(熊野古道)

初めての登山で自然に親しむ

1年B組 堀出萌絵

初めての登山。元々体力のない私はまったく自信がなかった。でも、予想していた登山のイメージとは少し違い、楽しんで登ることができた。途中、山の上から叫んだ「やっほー」の声で少し疲れがひいたような気がした。下りの道では3年生の先輩方が声をかけてくれたり待っていてくれたりして、私も先輩たちのようになれたらと思った。

その後、班別で昼食をとり、熊野古道センターで映像を見たあと、展示品を見学した。次に間伐材のヒノキで「マイ箸作り」をした。焦がして色を付けたり図柄を彫ったりと難しかったが、思い出に残る作品となった。

このような自然と触れ合うことのできる機会はとても良いことだと思う。また、先輩と後輩の仲も深まるなど、楽しい一日となった。

先輩としての自信につながる

2年A組 小林涼花

今回の自然体験学習では「熊野古道」を歩いた。1年生から2年生になった私は、先輩に支えてもらいながらも後輩を支えてあげる中間の立場となった。さらに今年は行き先が朝熊山から熊野古道へと変わり、未体験の場所ということで先輩についていけるか、また、後輩を支えてあげられるかと不安でいっぱいだった。けれど、先輩が盛り上げてくれ、1年生のみんなが言うことをしっかり守り一生懸命ついてきてくれたおかげで、不安でいっぱいだった気持ちが自信へと変わっていった。

「マイ箸作り」では熊野古道の歴史や自然の大切さ、自然を保護してくれている人々への感謝の気持ちを学べた。同時に普段は感じたことのない先輩としての自信を感じることもでき、この自然体験学習はとてもよい体験になった。

友だち、先生の思いやりに感謝

3年B組 中川陽菜

中学校最後の自然体験学習は、この3年間で、友だちとの距離を縮められたと一番実感できる時間となった。私は足を怪我していた。熊野古道を歩くのも他の人より遅く、迷惑をかけた。でも、同じ班の人たちはそんな私に対して嫌な顔もせず、「ゆっくりでいいよ」「大丈夫？」などと優しい言葉をかけてくれた。おかげで、私は熊野古道を最後まで歩き通すことができた。先生方からもずっと心配してもらって、申し訳ない思いながらもとても嬉しかった。

今回の自然体験学習のことを私は決して忘れない。そして、声をかけてもらって嬉しかった分、これからは自分が声をかけてあげられるようになりたいと思った。今後行われる行事では自分のことばかりでなく、周りの友だちのことを思って行動したい。



熊野参詣道の説明

まだまだ余裕で登れるよ

班で仲よく集合写真

マイ箸作り体験

第1回 皇學館中学校・皇學館高等学校 合同 オープンスクール 開催

開催日●平成27年8月2日(日)

昨年度好評を博した中学校・高等学校による合同オープンスクールを今年も開催! 中高の一体感と明るく清らかな学風を肌で感じていただける機会となっています。たくさんの方々のご来場をお待ちしています。

楽しい企画もいっぱい ●学食体験 すべて無料 ●お茶席 ●かき氷 ●アイスクリーム

午前の部 10:00~12:30(受付9:30~)

- 合唱部発表
●吹奏楽部歓迎ミニコンサート
●学校説明、入試説明
●施設見学 ※各自スリッパをご持参ください。
●学食体験【皇學館大学 倉庫会館】

午後の部 13:30~15:30

- クラブ見学【高校】 ※自由参加。大会などで見学できないクラブもありますのでホームページでご確認ください。
●体験授業【中学校】 ●部活体験【中学校】 ※自由参加
●制服体験【中学校】
●皇學館大学進学相談コーナー

皇學館中学校 オープンスクール2015 (小3~小6対象)

第2回 9月27日(日)
第3回 11月15日(日)

会場●皇學館中学校
内容●体験授業、学校説明、入試説明 など

皇中祭 10月24日(土)・25日(日)
会場●皇學館大学記念講堂、校舎
内容●合唱コンクール、クラス展示 など

お問合せ ☎0596-23-1398(代表)

皇學館高等学校 オープンスクール <学校見学会>

第2回 10月4日(日)
第3回 11月22日(日)

会場●皇學館高等学校
内容●学校・入試説明、校舎見学、吹奏楽部によるミニコンサート、クラブ見学(自由参加) など

※大会などで見学できないクラブもありますのでホームページでご確認ください。
※上記日程以外の見学も可能です。お気軽にお問い合わせください。

お問合せ ☎0596-22-0205(代表)

気付きと学びを生かす

フィールドワーク・校外学習体験記

この春、大学・高等学校・中学校においてフィールドワーク及び校外学習が実施された。芸術鑑賞や自然観賞、地域の人々との触れ合い、また、仲間との交流を通して得た知見や学びは、次のステップへの貴重な足がかりとなったようだ。

大学 フィールドワーク

体験学習の魅力再認識 将来、教育現場で生かしたい

中松ゼミ

教育学科3年 阪下陽祐

中松ゼミのフィールドワークでは小笠原諸島の父島を訪問した。小笠原諸島は「東洋のガラパゴス」と呼ばれるほどさまざまな固有種が生息し、豊かな生態系により2011年、世界自然遺産に登録されている。

父島では小笠原の生物や歴史についての施設を見学し、現地の方に解説を交えながら案内をしていただき、数多くの固有種について知ることができた。また、陸の生物だけではなく、透き通るような海で体験したシュノーケリングや名物であるホエールウォッチングでは色鮮やかな熱帯魚、2メートルを超す巨大な珊瑚礁、ザトウクジラの親子などの生物を観察し、本土との生物相の違いに目を奪われた。こうした多様な種を保護しようとする地元の方々の努力が各所で見られた。例を挙げると、小笠原に生息する固有種唯一の哺乳類であるオガサワラオオコウモリに関しては、作物に使用する保護ネットを絡まらない素材に変更し、個

体数の減少を防いでいる。他にも、小笠原固有の昆虫類の天敵であるグリーンアノールの駆除のため、トラップが至る所に仕掛けられていた。また、固有種を保護する活動は研究者だけではなく、地元の方々も協力し、進められていた。こうした活動は大人のみを対象としているのではなく、子どもたちにも身近な固有種に興味を持ってもらおうと研究者の方々が小学校に出向き授業を行ったりもしている。

このフィールドワークを通して机上の学習だけでは感じることができない体験学習の魅力再認識した。今回得た経験や知識を日頃の研究やゼミ活動で行っている出前授業、将来は教育現場で生かし、子どもたちにとって魅力ある授業を行いたいと強く感じた。



東京湾をバックにおがさわら丸の上にて

本物の迫力に圧倒され 美術への関心を一層深める

加藤ゼミ

教育学科3年 勝野律紀

今回私たち美術ゼミは約18時間のフライトを経てローマに行った。最も印象に残ったのはバチカン美術館のシステーナ礼拝堂で観たミケランジェロの天井画だ。有名な「アダムの創造」をはじめ、旧約聖書を題材にした9つのエピソードが鮮やかな色彩と躍動感に満ちた筆致で描かれており、あまりの感動に言葉もなく見入ってしまった。私語や写真撮影が禁止されていたため、大勢の人で混雑していたにも関わらず、神聖な静寂さに包まれながら鑑賞できた点もよかったと思う。美術書でこの天井画の一部を見たことはあったが、本物の色、放つオーラはこうも違うのかとつくづく感じた。

本物といえば、初日に地下鉄で行ったコロッセオ（ローマ帝政期の円形闘技場）も高いところでは50メートル近くもあり、



コロッセオにて

テレビや写真で見るとは比べものにならないほどの迫力だった。

ほかにも、古代ローマ遺跡のフォロ・ロマーノやラファエロなどの傑作が揃うベルバリーニ美術館、スペイン広場、トレビの泉、サン・ピエトロ大聖堂、サンタンジェロ城などを巡り、「芸術の都・ローマ」を満喫した三日間となった。ゼミ生の大半が楽しみにしていたサンタ・マリア・デッラ・ビットーリア教会にある「聖テレザの法悦」が改装中で見られなかったのは残念だが、次の機会にとっておこうと思う。

今回のフィールドワークによって本物に触れることの大切さを痛感した。また、個人的には卒論のテーマのヒントを得るなど、実り多いゼミ旅行になったと思う。そして、私たち美術ゼミ全体にとっても、絵画や芸術家、美術に対する興味関心がより深まったと感じている。

平成26年度 フィールドワーク日程一覧 ※2・3月実施分

◆国内			
学部	引率教員	日程	目的地・方面
文	木村 徳宏	3/22~25	九州・山陰地方
	小孫 康平	3/4~7	九州 (鹿児島・熊本・長崎・福岡)
深草 正博	3/4~8		
野々垣明子	3/4~8		
教育	中條 敦仁	3/3~7	
	中松 豊	3/3~10	小笠原諸島(父島)
	山本 智子	3/8~11	京都市・宇治市
	渡邊 毅	3/4~7	米沢・会津若松
	佐藤 武尊	3/11~13	東京・横浜
現日	新田 均	2/23~26	東京都内
	山路 克文	2/23~26	沖縄
	鶴沼 憲晴	3/4~7	三重県内(四日市・津・伊勢)

◆海外

学部	引率教員	日程	目的地・方面
文	小木曾一之	3/20~25	イタリア・ローマ
	加藤茂外次		
教育	豊住 誠	3/5~9	シンガポール
	吉田 直樹		
	吉田 明弘	3/5~9	グアム
	中村 哲夫		
	市田 敏之		
現日	錦 かよ子	3/6~11	イタリア・ローマ
	杉野 裕子	3/5~9	グアム
	渡邊 賢二		
現日	元塚 敏彦	3/9~12	フィリピン・セブ島
	叶 俊文		

研究室探訪 vol. 23

遠藤 司ゼミ
現代日本社会学部
現代日本社会学科

本質に目を向け、自ら考え行動し、社会に価値をもたらす人材となれ。

現代日本社会学科の准教授にこの春就任した遠藤先生率いるフレッシュなゼミ。研究室では毎週木曜、未来の日本を背負って立つ決意を秘めた学生たちが熱い議論を交わっています。

遠藤 司 准教授 (マネジメント)



本ゼミでは現代日本社会学部のコンセプトである「日本を動かそう」の信念のもと、自ら考え、行動し、社会に新たな価値をもたらすことのできる人材の育成に取り組んでいます。

本ゼミは「人間の成長」をテーマにしています。たとえば、授業では毎週1冊の課題本をもとに全員で意見を交わしますが、「正しい答え」を探そうとするよりも、「自らの答え」を述べることを重視しています。学生にはこうした意見交換や



企業訪問、社会の第一線で活躍する方々との会話を通して、自らが感じたこと、疑問に思ったことを掘り下げ、答えを見出す習慣を養ってほしいです。

本学の初代総長でもある吉田茂は「大志を抱けば天下何ものか恐るるに足らず」との言葉を遺しました。このゼミで学ぶ学生たちが、自らを高め、本分を見出し、未来の日本を担うのだと決意し、社会に価値をもたらす人材に成長してくれることを期待しています。

学生コメント

考えることの大切さを知る
三原隆幸君 現代日本社会学科3年



社会に出る前に、ビジネス界の最前線で活躍されていた遠藤先生からいろいろなことが学べるのではないかと思います。このゼミを選びました。受講して感じたのは、「考えることの大切さ」です。自分は何ができて、未来のために今何をすべきか、それぞれ大きな目標を持つゼミのメンバーや先生と真剣に議論を交わすのは刺激的で楽しく、ほどよい緊張感もあって素晴らしい雰囲気です。卒業後は人のために尽くす仕事に就きたいと思います。

遠藤先生は信念の人
醍醐拓海君 現代日本社会学科3年



遠藤先生の最大の魅力は、信念を持った方ということです。「日本を守る」という究極の目的をもって皇學館大学に来られた先生は、その確固たる信念のもと日夜さまざまな活動をされており、ぶれないことの大切さを身をもって示してくださいました。そうした先生の姿に、現代日本社会学部を選んだ自分たちの使命を再確認しました。将来は過疎地域をなくし、地域独自の魅力を大切にしながら、若者たちが地方で活躍できる社会の実現に貢献したいと考えています。

皇高NEWS

ローズヒル校の生徒十五名が書道を初体験

五月二十一日から二十六日までの五日間、本校の姉妹校であるオーストラリア・メルボルン市のローズヒルゼカンダリーカレッジの生徒十五名と教員三名が来校。本校生とともに神宮参拝や書道を体験し、日本の伝統文化に親しんだ。

平成十四年から続くこの国際交流事業。ローズヒル校からは二年に一度生徒が来校し、本校は毎年夏休みに二週間の日程でローズヒル校での語学研修を実施している。

今回、来校したローズヒル校の生徒十五名はホストファミリーである本校生徒とともに神宮参拝やおかげ横丁散策、茶道等を体験。また、本校で朝礼や終礼、授業、昼休み、掃除などの学校生活を送り、週末はホストファミリーと過ごすなど充実した五日間を過ごした。



漢字に添えられた「和名」は留学生の名前の音に、それぞれのホスト生が漢字を当てはめたもの

五月二十五日の五・六限目に行われた書道の授業では、シャノン・レイさんは「日本を訪れ、文化の違いに驚いてばかりいます。芸術に興味があるの

た」と語った。シャノンさんのホスト生・中川初保さん(三年十組)は「シャノンは昨年オーストラリアでホームステイした時のパディだったので、再会できて嬉しい。将来、小学校の先生になりたいので、今回の経験を今後に生かしたいです」と笑顔で話した。



ニコルさんに教える西松さん

ニコル・スカムナキさんは「日本での時間は本当に楽しかった。私たちの学校では授業は早く終わるし、書道の時

間もありません。さまざまな文化の違いを実感でき、面白かったです」と語った。ニコルさんのホスト生・西村友里さん(二年七組)は「ニコルちゃんがたくさんお土産を持ってきてくれたのが嬉しかったです。土日は、私が習っている能の稽古の見学や、百円ショップ、カラオケなどへ行き、伊勢での生活を楽しんでもらいました」と語った。

全校生徒二〇五名が一堂に

新入生対面式

四月十日、新入生を迎える朝礼が行われ、全校生徒二〇五名が一堂に会し平成二十七年度がスタート。続いて新入生対面式が実施され、

はじめに校友会総務委員長を務める青木宏介君が歓迎の挨拶を行った。青木君は「高校生としてのルールを守って



新入生を代表して挨拶する桑原さん

けは楽しく充実した高校生活を送ることができると、最上級生としての立場から貴重なアドバイスを送った。一方、新入生を代表して挨拶に立ったのは桑原礼奈さん。入学式でも宣誓という大役を担った桑原さんは挨拶の中で「二、三年生の先輩方と一緒に、一

保護者会・後援会の総会開催

五月九日、中学校セミナーホールにおいて平成二十七年度の保護者会総会、後援会総会が開催され、多数の保護者に参加いただいた。



今年も多数の保護者の方々にご参加いただいた

両総会とも西谷豊事務局長、中村貴史学校長からの挨拶のあと平成二十六年年度事業・決算報告から審議が進められた。司会は中学校が清水久美子役員、高校は中川幸洋総務部長が担当。総会では新

躍ぶりを小林誠治教務部長、多田真二教頭がパワーポイントによる資料映像をもとに保護者に披露。総会の最後には中高の新任教職員が紹介さ

れ、今後の抱負も含めて一言ずつ挨拶があった。続いて皇學館大学倉陵会館に会場を移し、保護者・教職員懇談、交流の機会として恒例の合同懇親会が設けられた。後援会新会長の廣耕太郎氏による挨拶後、中学校保護者会新会長の徳田玲子氏が乾杯の音頭をとると、会場はすぐに和やかな雰囲気になりました。参加者は飲み物を手にテーブルに並んだ料理を味わいつつ、和気藹々と歓談の時間を楽しんだ。最後は高校保護者会新会長の谷本保明氏の一丁締めで会を閉じた。

皇中NEWS

皇學館中学校生として自覚新たに

対面式・新入生オリエンテーション

入学式の翌日、四月八日に対面式が行われ、校友会役員有志と新入生の徳田唯さんがそれぞれ挨拶の言葉を述べた。挨拶に続き恒例のクイズ形式の催しが始まり、緊張が解けたのか新入生たちは一様に笑顔を見せ、全員で楽しい時間を過ごした。八日から十日にかけてはオリエンテーションが実施され、新入生たちは皇學館中学校生としての自覚を新たにしていた。



「この先生だ〜れだ?」

一年A組 田中 沙都紀

新しい仲間や先生方に囲まれているけれど、とても緊張していた時、先輩の皆さんが楽しく先生方の紹介を

規律を守っていききたい

一年B組 久野 綾香



入学式の時はとても緊張したけれど、先生も先輩方も優しくそうでした。セミナーホールでは、学校の生活や規則についていろいろな係

学年ミックスで仲良くプレー

新入生歓迎ドッチボール大会

四月二十二日、第二体育館において開催された新入生歓迎ドッチボール大会では、三年生が縦割りでチームを組み、熱戦を繰り広げた。新入生たちは先輩たちと一緒に息を弾ませ、汗を流していた。



「優しい先輩」をめざして

一年A組 堀内 もも

一年生から三年生まで学年ミックスの男女別でゲームをしました。小学校でもドッチボールをしたことはあるけれど、先輩・後輩がミックスで



プレーすることはなかったのでも楽しかったです。結果は四位でした。B組の、

先輩や体力のある先輩が多かったにもかかわらず、相手の人が投げたボールを自分たちだけで投げずに、先輩の私たちにまで回してくれました。とても嬉しかったです。私もそういう先輩をめざしたいと思います。

人事異動

平成27年4月1日付()内は旧職

大学

Table of university staff movements including appointments, transfers, and dismissals across various departments like Faculty, Administration, and Student Support.

平成二十七年 特別招聘教授

Table listing special appointments for the 27th year, including names and their respective institutions.

高等学校・中学校

Table listing staff movements for high schools and middle schools, including appointments and transfers.

就職率は九八・七%

平成二十六年 卒業生就職状況

Main text of the employment status report for graduates of the 26th year, detailing the 98.7% employment rate and the number of graduates.

Table 1: Employment status of graduates in the 26th year, showing data by faculty and gender.

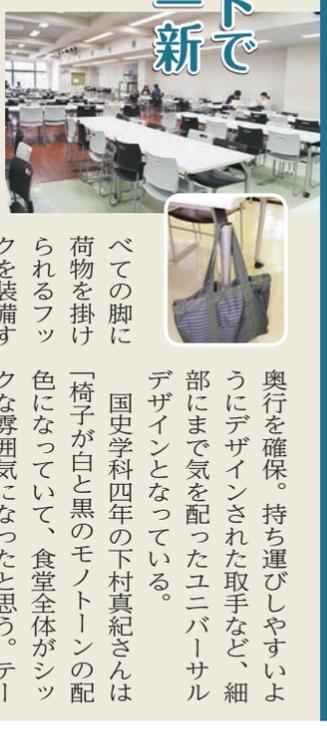
三重県小学校における 占有率は県内トップ
就職関係
三重県小学校における占有率は県内トップ。就職関係は、男子は全員が神職課程履修者のうち、神社関係奉職希望者...

平成二十七年 専の会 総会及び役員会報告

専の会役員会
伊勢シティホテルにおいて五月十六日、午後三時より専の会の役員会が開催され、全国からお集まりいただいた役員六十名と本学教職員十四名で総会に諮るべき議事が審議された。

Table of the Executive Committee members for the 27th year, listing names and positions.

卒業生寄贈のダイニングセットで 雰囲気一新
このほど平成二十六年卒業生から食堂のテーブル八十台・椅子四十四脚・カーテン一式、社会福祉学部卒業生一同より温蔵ショーケース一台・冷蔵ショーケース一台が寄贈された。



奥行を確保。持ち運びしやすいようにデザインされた取手など、細部にまで気を配ったユニバーサルデザインとなっている。

Advertisement for a career guidance lecture and consultation session for students, including dates, times, and location.

イベント情報(6~8月)

6月
27日 佐川記念神道博物館 教養講座 佐川記念神道博物館講義室
 学芸員が語る三重の文化と魅力II
 「川喜田半泥子と石水博物館—半泥子が三重にのこした物—」 龍泉寺由佳(石水博物館学芸員)

27日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
 「信貴山における神仏習合と神仏分離」
 河野 訓(文学部教授)

7月
4日 月例文化講座 431教室
 平家物語を「馬」から読む 深津陸夫(文学部教授)

4日 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館講義室
 「古代文書を読む」
 荊木美行(研究開発推進センター副センター長・教授)

4日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 1日・短期講習会「まつりの心」と「おもてなし」
 木村徳宏(文学部助教)

11日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 「古事記」(上巻)を読む
 「禊ぎ・三貴子誕生」 白山芳太郎(文学部教授)

18日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 1日・短期講習会 大阪府の万葉集(1)
 大島信生(文学部教授)

19日 みえアカデミックセミナー2015 三重県文化会館レセプションルーム
 戦国貴族の生き残り戦略 岡野友彦(文学部教授)

25日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
 「鞍馬山における神仏習合と神仏分離」
 河野 訓(文学部教授)

8月
1日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 1日・短期講習会 宮崎アニメから神道を考える(2)
 ～ゆるやかにつながる神々～ 板井正育(現代日本社会学部准教授)

8日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 「古事記」(上巻)を読む「スサノオの命の高天原
 来訪・五男三女神誕生」 白山芳太郎(文学部教授)

22日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
 神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
 「出羽三山における神仏習合と神仏分離」
 河野 訓(文学部教授)

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
- 共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、**有料**です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。
- 佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要です【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
- 研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要です【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6462)へお願い致します。
- みえアカデミックセミナー2015は、事前の申込みが必要です【先着順】。お問い合わせは、三重県生涯学習センター(☎059-233-1151)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。

編集後記
 「潜在能力は、そいつをその場に引く張力出さないと分かんない」と、就任七年目で硬式野球部を創部初の全国大会出場に導いた森本監督の言葉です(「伸びてゆく力」監督と野球の「目利き」)。出版社より抜粋。監督自身は陸上競技の選手として活躍されました。東海大会で格下の本学が優勝できたのは、森本監督の指導の賜と、それ自身がその役割を担って、二〇%の力を発揮し、チームの総合力で勝利したと分析しています。男子は二年連続、男女揃って初の全国大会出場となる柔道部とともに皇學館の名を全国にとどめてほしいと願います。【企画部】

丸投・走高跳・四百メートル走、二日目が百十メートルハードル・円盤投・棒高跳三メートル以上を跳べる者とされている。乾君は五月に開催された第八十一回東海学生陸上競技対校選手権大会で一年生ながら見事三位に入賞。六五四点の自己新記録をマークした。

競技大会は七月四日、五日に長野市宮上競技場で開催され、一日目は百メートル走、走幅跳・砲丸投・走高跳・四百メートル走、二日目が百十メートルハードル・円盤投・棒高跳・やり投げ・千五百メートル走となっている。さまざまな身体能力が必要とされる走・跳・投すべての種目において優れた成績を残さなければならぬため、この競技の覇者は、キング・オブ・アスリートと称えられる十種競技。皇學館の星として、乾君の活躍に期待したい。

創部初! 硬式野球部 明治神宮球場へ



初優勝を決め、濱岡君に駆け寄る選手たち

五月二十三日に静岡市の清水庵原球場で行われた東海地区大学野球リーグ春季選手権大会に三重県代表として出場した本学硬式野球部が常葉大浜松(静岡)を三対二、中京学院大(岐阜)を四対二で破って優勝し、創部五十四年目にして全日本大学選手権初出場を決めた。練習環境は決して恵まれていない。専用グラウンドがなく、市営球場を一日二時間借りて練習を重ねる日々。



鈴木市長(右)に健闘を誓う森本監督(中央)と天満君

東海地区代表として全国大会に出場するにあたり、六月一日、森本監督と主将の天満敦紀君(教育学部四年)、新田均部長らは鈴木健一伊勢市長を表

その分集中して取り組む、空き時間は筋トレや走り込みなどで身体作りを励んだ。投手の濱岡健士君(現代日本社会学部四年)は昨年度の三重県春季リーグと今大会で最優秀投手賞に輝いた実力の持ち主。安定した下半身から生まれる彼の緩急自在な投球術と同部の持ち味である堅い守り、粘り強さが悲願の全国大会出場に結びついた形だ。「伊勢神宮から明治神宮へ」を合言葉に鍛錬を重ねてきたという森本監督は「最後まで諦めず、本当によくやってくれた」と部員たちをねぎらう。



創部以来、初めての男女揃っての全国大会出場!

愛知県武道館で五月十七日に行われた東海学生柔道優勝大会で本学柔道部が男女ともに三位に入賞。六月二十七日、二十八日に日本武道館で開催される全日本学生柔道優勝大会にアベック出場することが決まった。男子は二年連続、男女揃っての出場は創部以来初の快挙だ。

敬訪問。天満君は「多くの方の支えで野球ができたという感謝の気持ちを忘れず、プレーに集中したい」と決意を述べ、市長からは「伊勢の名を全国にとどろかせてほしい」との励ましの言葉とともに色紙と激励金の目録が手渡された。また、六月五日に鈴木英敬三重県知事を訪問した際は「聖地から聖地へ行くということ、伊勢の名に、三重の名に恥じない戦いをしてほしい」と知事に勇気づけていただいた。

柔道優勝大会で本学柔道部が男女ともに三位に入賞。六月二十七日、二十八日に日本武道館で開催される全日本学生柔道優勝大会にアベック出場することが決まった。男子は二年連続、男女揃っての出場は創部以来初の快挙だ。部員たちをこまめに導いた佐藤武尊監督は今回の勝因を「すべては学生たちの日々の努力。過去の大会であと僅かというところで優勝を逃すなど苦杯をなめた分、悔しさをバネに厳しい稽古にも



鈴木知事(前列左から3人目)と一緒に気合いのポーズ!

の大会であと僅かというところで優勝を逃すなど苦杯をなめた分、悔しさをバネに厳しい稽古にも

前向きに取り組んできた」と分析する。その上で、「単なる技の上達や勝敗のみにこだわるのではなく、柔道を通して人間力を高めるのが我が柔道部のめざすところ」と話

す佐藤監督。全国大会に向けては「男子三十二名、女子九名、計四十一名の部員が一丸となって最善の準備を行い、最高の結果を残せるよう頑張りたい」と抱負を語った。



ねぎらいの御言葉に感激

皇學館大学の皇居勤勞奉仕は長い歴史を有し、学部学科を問わず学生の運営による奉仕団である。今回は二月二十四日から二十七日までの日程で行われ、四十五名が参加した。私は本学に入学してから毎年皇居勤勞奉仕に参加しており、今年も皇居勤勞奉仕に参画し、三重県伊勢市から参画することを申し上げた。両陛下には我が皇學館大学のことをよくご存知であらせられ、天皇陛下には「ご苦勞様、皇后陛下には「遠いところありがとう」とねぎらいの御言葉を賜り、団員一同恐懼感激した。また天皇陛下には団員の構成について御下問があり、さらに皇

に皇太子殿下より御言葉を賜った。皇居では蓮池参集所で御会釈が行われ、天皇皇后両陛下におかれてはお住まいである御所から御車を代表して私が、団体名、人数を奉告し、三重県伊勢市から参画したことを申し上げた。両陛下には我が皇學館大学のことをよくご存知であらせられ、天皇陛下には「ご苦勞様、皇后陛下には「遠いところありがとう」とねぎらいの御言葉を賜り、団員一同恐懼感激した。また天皇陛下には団員の構成について御下問があり、さらに皇

皇學館大学が伊勢の神宮にどのような奉仕をしているかをお尋ねあそばされ、殊に先の式年遷宮の際の奉仕について御下問があった。皇后陛下には皇學館大学の神宮への奉仕に対して「どうもありがとう」、また、「伊勢をよろしく」という格別な御言葉を賜った。東宮御所では皇太子殿下より「何を研究していますか」「有意義な学生生活をと、団員へ御言葉を賜った。最終日に、宮内庁職員から両陛下には今回皇學館大学の学生が勤勞奉仕に参加したことに対して大変お喜びであったということと伺い、改めて感激した次第である。 第八代團長 齋藤佳祐

OPEN Campus 2015

Kogakkan University

参加無料 予約不要

「学校」見学DAY
 7月11日(土)
 13:00~16:00

「学び」体験DAY
 7月12日(日) 8月9日(日)
 11:00~16:00

皇學館大学の学びの雰囲気を体験できる一日。

体験型プログラム
 ○キャンパスツアー
 ○個別相談コーナー
 ○学食体験 など予定
※内容は各開催日によって異なります。詳細は随時ホームページにアップします。

受験生サイト
 [Campus view]
<http://kogakkan-u.ac.jp/campusview>
※機種により読み取れない可能性もあります。

友達追加で、大学の最新情報をGet!

未来へつなぐ日本のこころ

皇學館大学

[入試担当] 〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
 TEL 0596-22-6316

皇学館 検索